

環境ミニ知識

新聞、テレビ、ニュースなどで見聞きするけれど、あまり知らない「言葉」や「現象」について少し知ってもらえたらいいな！と、ミニ知識を紹介するコーナーです。



カーボンプライシング

カーボンプライシングとは炭素に価格付けをすることで、二酸化炭素の排出を抑制しようという政策のことで、具体的には、二酸化炭素を排出する企業や個人などに、二酸化炭素の排出量に見合った金銭的な負担を求める政策を意味します。カーボンプライシングには明示的なものと暗示的なものがあり、そのうち世界で積極的に採用されているのが明示的カーボンプライシングです。そして明示的カーボンプライシングの1つが炭素税です。

クライメイトクロック

クライメイトクロック(=気候時計或は地球温暖化時計)とは、温暖化の連鎖が止められなくなる平均気温「1.5℃」の上昇までに残された時間のこと。つまり、地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素の排出が、今のペースのまま続いた場合にこの 1.5℃の壁を超えるまでに残された時間がどれくらいあるかを示すカウントダウンタイマーのことです。残された時間はあと7年を切ったところを示しています。



ひとこと



昨年の新年号のお知らせコーナーでご紹介したパート職員米田侑香さんが、昨年末22日をもって退職されました。また、10月末には長年お勤めいただいた三橋由布子さんも退職されたのです。「えっ、何で？」と思われる方もおられるかもしれませんが、夫々になるほどという事情があつての退職ですのでご安心ください。そこで急遽職員を募集し、パート職員2名を採用することになりました。業務になれるまでの間、皆さんにはご迷惑とご不便をおかけすることになるかもしれませんが温かく見守って頂ければと思います。

子

ひらかた環境ネットワーク会議 会報「環境ひらかた」第76号

令和5年1月1日発行(年4回発行)

発行:(特活)ひらかた環境ネットワーク会議



〒573-0042 大阪府枚方市村野西町5番1号

サブリ村野内(旧村野小学校)

電話 072-847-2286

FAX 072-807-7873

Eメール jimukyoku@hirakata-kankyou.net

ホームページ <http://www.hirakata-kankyou.net>

発行責任者:井上 浩一

編集責任者:丸井 晶子

この発行誌は再生紙を使用しています

市民・事業者・行政が協働し 環境先進都市を実現する ひらかた環境ネットワーク会議 会報誌

NO. 76
冬号

令和5年
(2023年)

環境ひらかた



あけましておめでとうございます

昨年も新型コロナは引き続き私たちの生活に大きな影響をもたらしました。加えてロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー資源の不足や、円安を原因とする物価高等、私たちの生活は更に厳しい状況となる一年でした。

新型コロナは、予防接種や新薬の開発等少しずつ落ち着きを見せ始めたものの、まだまだ予断を許さない状況です。

こんな時だからこそ一人一人が生活を見直し、身近で出来る事を着実に行う事が大事だと思います。

今年も楽しく笑顔で活動できるよう、皆さんと一緒に考えながら進めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

～エコフォーラム 2023 のご案内～

17 回目となる今回のエコフォーラムを下記の通り開催します。



開催日時:2023 年 2 月 11 日(土)

10:00～15:00

開催場所:サブリ村野

ぜひ皆さんお揃いでお越しください

****目次****

新年のごあいさつ	P 1
エコフォーラム開催します	
環境ミニ講座・ティールーム報告	P 2・3
部会報告	P 4・5
お知らせコーナー	P 6
環境トピック VOL. 42	P 7
環境ミニ知識	P 8

今年はやいます エコフォーラム2023

昨年のエコフォーラムは、直前で「表彰式のみ」を行うという、非常事態宣言が出ていないにもかかわらず“非常事態”下での開催となってしまう、多くの皆さんにご迷惑をおかけすることとなりました。今年も相変わらずコロナの心配はありますが、政府も感染症法上、現在2類に分類されているコロナについて、季節性インフルエンザと同等の5類への引き下げを検討しているようで、来る2月11日は開催できると信じ準備を進めています。

今回は久しぶりに午後の部の開催も予定をしています。(詳細はチラシをご覧ください)

知ろう 語ろう 省エネと節電

「暮らしとエネルギー」のこと

《午後の部の基調講演》

省エネと節電「同じじゃないの」「いや、いや全然違うよ」との声が聞こえてきそうです。基調講演ではこれらの声に応え“目からうろこ”のお話を聞いていただけたと思います。原発がなし崩し的に稼働へと移行している今こそ「節電という名の発電所」が大きな意味を持ってきます。

講演後には、みんなで大いに語り合いたいです。ご参加お待ちしております。

10/19 自然エネルギー学校 活動報告

「バス見学会」

昨年10月に再生可能エネルギーの中でも地域ベースロード電源として期待されている「小水力発電（比良マイクロ水力発電小屋）」や当市の「大規模太陽光発電（ひらかたソラパ）」の見学会を実施しました。参加者の方々から「CO₂の削減行動の意識が高まった」、「再生可能エネルギーの理解が深まった」等の声が数多く寄せられ、「実際に見ること（見学会）」が、「聞くこと（講演会、マスコミ等）」や「知識として知ること（資料、書物等）」より、はるかに効果が高い事業であると再認識する機会にもなりました。



12/8 環境ティールーム 報告

「干し柿づくり」

“サプリ村野でマイゴーヤ作り”こんな取り組みを聞かれたことがあると思います。昨年も15人の方の参加で楽しく実施しました。

そして今回もオプション企画として、リピーターの方にとって、とっても楽しい「干し柿づくり」をしました。渋柿の皮をむき、自分で編った縄に柿をつるし、情報コーナーの窓の外に干しました。



環境トピックス Vol.42

私達を取り巻く環境は日々変化しています。最近の環境問題や、環境に関する事柄について「知ってほしい・知らせたい」情報などをこのコーナーで伝えていきます。

今回は、「東京都 全国初 太陽光パネル設置義務化提案」「政府 炭素税見送り」の問題です。

◆東京都 全国初 太陽光パネル設置義務化提案

「1400 万人が居を構える住宅の屋根。この屈指のポテンシャルを開花させ脱炭素化を牽引する」と、昨年12月1日の都議会で小池百合子知事が制度の必要性を語り、新築建物に太陽光パネル設置を義務付ける条例改正案を都議会に提出しました。このニュースをご存知の方も多いと思います。国も昨年「30年に新築戸建て住宅の6割にパネルを設置」という目標を作ったとこの欄でお伝えしましたが、義務化までは踏み込めずなかなか進んでいないといった状況があります。カーボンニュートラル社会の実現には、このように制度そのものを変革していくことが望まれますが、一方で課題もあります。20～30年と言われているパネルの寿命ですが、大量廃棄にどう備えるかという事について十分な制度が整っていません。大量廃棄への対応策、再利用やリサイクルについての検討が必要です。

ちなみに冒頭の都の条例案は昨年末12月16日可決制定されたとの報道がありました。

◆政府 炭素税見送り

昨年11月29日GX(グリーントランスフォーメーション)実行会議において、経済産業省が示した「賦課金」と「排出量取引」を組み合わせる案が了承され、炭素税の導入は見送られました。その背景には、毎年国会で決める税方式より、省庁の裁量で負担率を調整できる賦課金方式がいいとの、産業界に配慮した思惑がうかがえます。

炭素税とは、カーボンプライシングの手法の1つで、二酸化炭素を排出する化石燃料や電気の使用量に応じて企業や個人に課せられる税金をさします。まだ日本では導入されていないため、聞き慣れない人も多いのではないのでしょうか。

世界では北欧でいち早く炭素税を採用し、2022年2月現在、二酸化炭素の削減をはじめとするさまざまな成果を出しています。日本では環境省で前向きな導入が検討されていましたが、今回見送られたことでカーボンニュートラル社会実現が遠のいたのではないかと感じています。

ちなみに温暖化対策税は既に徴収されていることを皆さんはご存知でしょうか。石油、石炭、ガスなどの化石燃料の利用に対し課税されています。2012年に導入され段階的に引き上げられ、現在は原油・石油製品は1kℓ当たり760円、天然ガス・LPGは1t当たり780円、石炭は1t当たり670円課税されています。



お知らせコーナー

このコーナーの情報に関する申し込み、お問い合わせはひらかた環境ネット会議事務局までご連絡ください。 ☎072-847-2286

◆◆◆エコキャップの回収報告◆◆◆

●エコキャップ R4年10月26日搬入分

重量：280kg (取組開始からの累計 8,421.8 kg)
個数：120,400 個 (取組開始からの累計 3,621,374 個)
CO₂削減量：882 kg (取組開始からの累計 26,528.67 kg)



エコキャップの取り組みを通して、環境問題に関心を持ち行動するきっかけとなることを願っています

搬入したエコキャップは、再生プラスチック原料として換金され、公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに寄付され、全国で病気の子供とその家族が利用できる滞在施設の建設費及び運営に充てられます。詳しくは公益社団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンのH・Pをご覧ください。

新職員のご紹介

2022年12月23日から藤井和代さんが、2023年2月1日からは田中明日香さんがそれぞれパート職員として週3～4日来てくださることになりました。※関連記事は8面“ひと言”欄に記載



「なんでも相談コーナー」名称募集!!

新年度から「なんでも相談コーナー」の開設準備を進めています。この“コーナー”の名称を広く皆さんから募集いたします。

とは言え、このコーナー「なんでもって何を相談するところ?」「どんな相談ができるの?」を知って頂かないことには、いいネーミングも浮かばないと思います。

このコーナーでは、次のような事柄についての相談を受けられたらいいなと考えています。

・省エネ家電への買い替え ・家の断熱に関するエコ情報 ・ゴミ減量に関するエコ情報 等
エコライフに関すること、何でも相談していただけるようなコーナーになればと思っています。是非ふるってご応募ください。(但しお一人様3点まででお願いします)

【募集要項】

応募締め切り：2023年2月28日

応募方法：考えた「名称」と「応募者のお名前」「連絡先」をお書きいただき、ひらかた環境ネットワーク会議まで、メール、FAX、郵送のいずれかでお送りください。

※採用された方には環境ネットワーク会議オリジナル図書カード3千円分をプレゼント。

エコフォーラム会場は…

見て 体験して 環境のこと 楽しく学ぼう!

フースラリー

各ブースのクイズに答えながらブースを全部回ると素敵なグッズプレゼント。



出店フースは

関西リサイクルシステムズさんや、竹取物語の会さん、天の川を清流にする会さんなどの出展が予定されています。クラフト体験もできますよ♪

フース展示

企業や団体・行政の環境に対する取り組みや活動をパネルやモデルで紹介。温暖化問題や家電リサイクルの流れ、天の川での取り組み、里山保全の取り組みなど、パネルとモデルで学びます。



※写真は昨年度の様子です

みてだぜ
て出ちひ
かも
け誘お
てっ友



環境表彰・温暖化対策の

取り組み表彰

午前の部では、①枚方市環境表彰 ②緑のカーテン表彰 ③温暖化対策の取り組み報告 ④環境家計簿「我が家のエコノート」継続者認定 ⑤エコ宣言当選者発表があります。また「バス!のってスタンプラリー」の当選者への⑥賞品のお渡しも予定されています。午後の部では講演会を予定しています。

11/10 環境講座 くらわんか塾 報告

～枚方市のごみ減量推進課の職員さんに環境出前授業～

「世界のゴミ現状と枚方市のゴミ減量への取り組み」

世界のゴミの現状、「ゴミになるものを持ち込まない」「有効に使う、使い切る」など、ゴミを減らすための基本的な考え方を示し、ごみ減量推進課の職員からは、枚方市のリサイクルの具体的な取り組みについて教えていただきました。ペットボトルのゴミの出し方についての質問は、キャップ、ラベル、ボトル3つに分けられたら正解。一人一人ができること、それは分別によって「ゴミ」にしないこと。新たに生まれ変わるチャンスがあることを心に留めて生活していきたいと思いました。



12/8 環境ティールーム 報告

「アーカイブ映像で見る環境問題」

過去の映像から地球温暖化を話し合うべく、2021年に放送されたNHKスペシャル「2030未来への分岐点 第1回 暴走する温暖化“脱炭素”への挑戦」をみました。映像の中で、地球温暖化対策にデモを起こし必死で抗議する若者たちを見て、先日のワールドカップと重なり、若い世代の担い手と、環境教育の重要性を皆さん強く認識されていました。今年度は、2月に「昆虫食が現実となる!?!」と3月に「地産地消でみんなが笑顔に!」というテーマで開催予定です。





部会活動紹介

ひらかた環境ネット会議では、それぞれテーマごとに部会を結成し、主体的に活動を行っています。

環境教育部会

持続可能な環境出前授業を目指して！

環境出前授業は、2004 年の「NPO ひらかた環境ネットワーク会議」発足当初から小学校を中心に継続して行ってきました。その間に活動メンバーも入れ替わりましたが、発足当初の思いを維持継続し、一人一人の高い志に支えられて今日に至りました。一方で新型コロナの感染拡大の影響でここ数年は環境出前授業の受け入れ側の自粛も影響しましたが、新しくコロナ対応の新規メニューを開発し、メニュー冊子も刷新してホームページに公開すると同時に、学校への配布と訪問説明に回りました。その甲斐あって、R4 年度は過去からの依頼校に加えて新規依頼校が徐々に増えました。また、枚方市の環境基本計画の全体に関わる重点施策である「環境教育の充実」という施策の一端を担っている以上は、政策的に環境政策課や教育委員会とも連携していくことが重要と考え、教育委員会にも活動の説明紹介に伺いました。

しかし、これからの依頼に応えていくには新規メンバーの拡充が大きな課題であり、部会員からは「活動が楽しくないと新たなメンバーも増えない」との指摘を受けています。確かにボランティア活動である以上、各自の価値観も異なるので難しい課題ですが「楽しいことも大事」と、4 月の年度初めに山田池公園で花見とバーベキューを行いました。こうした部会活動の楽しさも伝えながら、会員募集チラシも活用し、新規メンバーの拡充に取り組んでいきたいと思っています。そして「未来の子供たちのための社会貢献活動」の一端を担っていることに誇りを持って、さらなる飛躍と活動が継続できることを願っております。



「第 32 回バス！のってスタンプラリー」



八幡市こども動物園

スタンプシートは松花堂弁当をデザイン



ゴールに到着！

公共交通部会

「第 32 回バス！のってスタンプラリー」開催

当部会では、公共交通利用促進を目的に、併せて地域の魅力を発信し、まちの活性化を維持できる社会の実現をめざし、「第 32 回バス！のってスタンプラリー」を今回は隣接する八幡市と共に実施しました。昨年 8 月に実施した「バスバックヤードツアー」に次いで、今年度 2 つめの企画でした。今回の参加者は延べ 241 名。アンケートは集計中ですが「とても面白かった」「面白かった」と回答された方がほとんどでした。応募された方の中から抽選で当たる“枚方、八幡の景品”の当選者発表は、当会 web サイトで 1 月末に行い、景品は 2 月に開催される「エコフォーラム」にてお渡しする予定をしています。従来、春・秋の年 2 回、一日開催であったスタンプラリーも、コロナ禍で 2019 年秋以降開催できていませんが、今回は従来型の「バス！のってスタンプラリー」を、アイデアと工夫を凝らし「公共交通利用促進」と「まちの活性化を維持できる社会の実現」に向け、更なる効果をめざして開催したいと思っています。

※スタンプラリーの様子は 4 面下を！

自然エネルギー部会

追いつけ！追い越せ！再生可能エネルギーの導入

化石燃料の高騰と供給不安により、エネルギーを過度に他国に依存するのは大きなリスクになるとの教訓を得た多くの国々は、国産エネルギーである「再生可能エネルギー」の拡大を必死に急いでいます。これを受け、先般、国際エネルギー機関（IEA）は、「世界において、太陽光や風力等の再生可能エネルギーの割合が 2025 年に石炭を抜いて最大の電源（2027 年で 38%）になる」と発表しました。ところが日本はと言えば、2021 年の再生可能エネルギーの比率が初めて 20% 超え 20.3% になったとはいえ、ヨーロッパや中国に遅れをとっているのが現状です。この遅れの要因の一つとして、規制緩和や地元調整の遅れ等が指摘されており、これらの要因の解消に向け、私達市民も再生可能エネルギーに係る知識の更なる習得とともに、設置に向けての理解を深めていくことが求められています。このような背景の中、昨年 10 月に当部会で見学会を実施しました。（2 面下報告）令和 5 年度もこのような事業を開催したく思っていますので、その際には是非とも参加してくださいネ！！